

「子どもと自然の物語」

～北の川探検隊 活動報告 & 助成金事業報告～

水口 拓真（標津町 北の川探検隊代表）

●北の川探検隊の活動

この地に暮らす子どもたちに見せたい風景があります。

夏、小さな滝の下には、透き通るように広がる天然のプール。そこには、産卵を控えたサクラマスが群れています。

この地に生きる子どもたちにたくさんの感動体験を。

落ち葉舞う秋、苔むす岩をそっとめくってみます。ハサミをもたげながら、カサカサと動くのはニホンザリガニ。小さいけど、そこには確かな存在感と野生の息吹を感じます。そんな思いから2004年に立ち上げた「北の川探検隊」は10年目をむかえ総参加会員数約90人の子どもたち、大人たちが川を歩き、自然のメッセージを受け取ってきました。

川を通して見えてくる、地域の、そして自然の姿。夏には夏の、秋には秋の…四季折々、野生の営み。

その季節、その場所だからこそその遊びを子どもたちに体験させたい。地域の姿を自分の言葉で語れるように。

北の川探検隊では、年間を通して、“その季節、その場所だからこそできる遊び”をテーマに、忠類川水系、古多糠川水系、薫別川水系をフィールドに活動しています



●助成金事業報告

2013年度、前田一步園財団様より助成金をいただき、活動の普及啓発を目的に「子どもと自然の物語」～北の川探検隊が綴る知床日記～を発刊させていただきました。現会員やこれまでの会員はもちろん、地元の農業協同組合やコミュニティスペース、CAFÉや北海道教育大学釧路校や各種NPO自然体験活動団体に配布/置かせていただくなど、啓蒙や啓発を進めています。

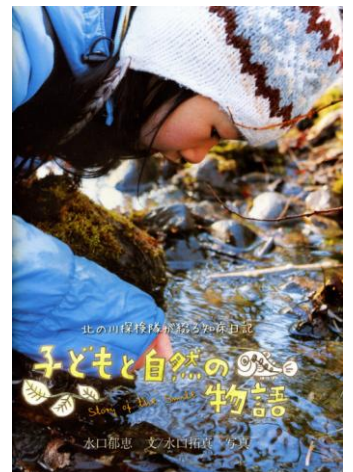
本書を見て、会員希望者やスタッフとして活動参加を希望する学生も着実に増えており、一定の成果は現在進行形で得られています。

●おわりに…写真家 星野道夫さんの言葉をかりて

子どもの頃に見た風景が ずっと心に残ることがある。

さまざまな人生の岐路に立った時 いくつか見た風景に

励まされることがきっとある。



「旅をする木」1999年文集文庫より

